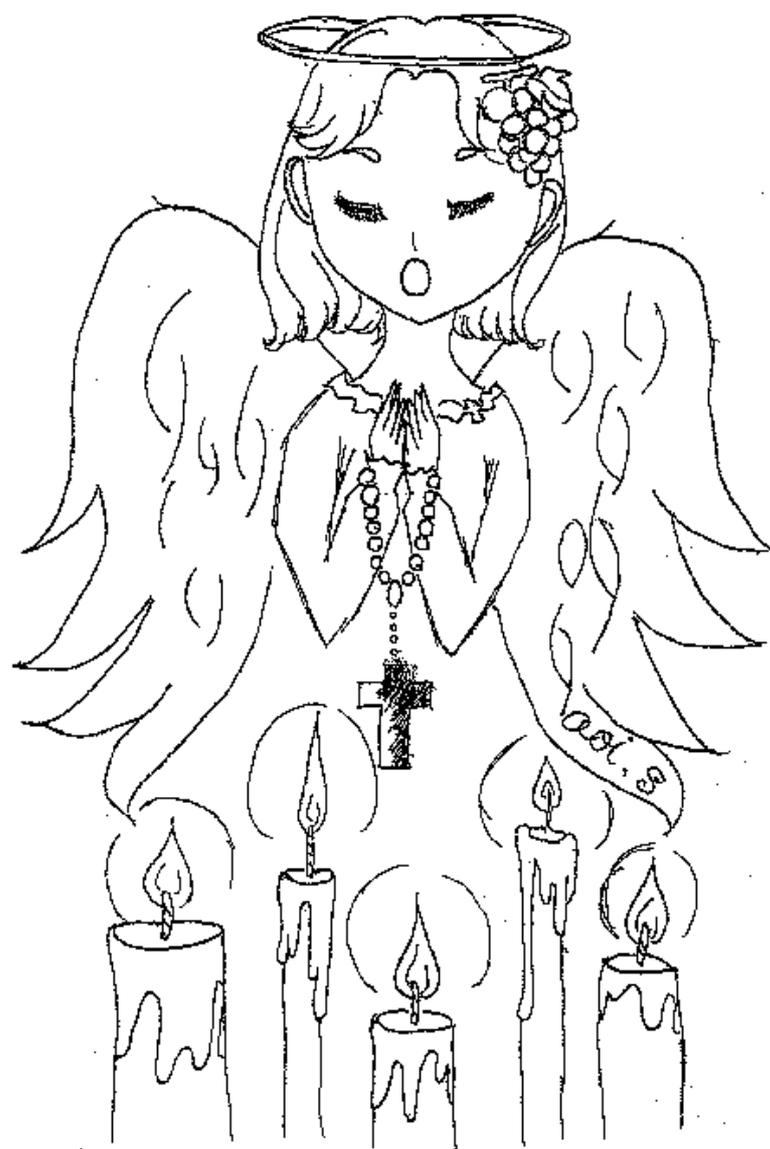


# すみよし



2016 被 昇 天 号 第 199 号

聖句

「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせてい  
ますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにお  
っしゃってください。」

主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのこ  
とに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一  
つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げては  
ならない。」

ルカ 10 章 40-41



選：マリア・マグダレナ  
K.T.

目次



## 《 被昇天の聖母とともに 》

傘木 澄男 神父

聖母被昇天祭は毎年お盆と重なりますが、私たちはこの日を恒例の夏の祭りとして過ごしてしまわないで、「聖母被昇天は今の私たちに何を求めているか」を良く考える日としたいと思います。被昇天とは「聖母はこの世の生活を終えられた後、おからだも天に挙げられ、御子イエスと共に復活の恵みに完全に与って天の栄光に入られた」という信仰です。天使のお告げを受けた時、おとめマリアは「私は主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」と謙遜に神の召し出しを受け入れられ、それから生涯主の忠実なはしためであり続け、御子イエスと結ばれて神の救いのご計画の実現に深く協力されました。そしてそのご一生が終わった時、御子は母マリアをご自分の復活に与らせてみ許に引き上げられたのです。

被昇天の教義が宣言された時教皇様が憲章の中で引用された七世紀の教父ダマスコの聖ヨハネは、被昇天についてこう美しく述べています。「創造主を子として胎内に宿したマリアが、神の幕屋に留まるのは当然であった。御父からご自分の花嫁に定められたマリアが、天の家に住まうのは当然であった。十字架のわが子を眺めて悲しみの剣に刺し貫かれたマリアが、父の右に座すわが子を眺めて観照するのは当然であった。」聖書は聖母マリアを「神である御子イエスに最も親密に結ばれて、絶えずその運命を共にして行く御者」として示しています。キリストは十字架の死によって完全な奉献を御父に捧げられ、それが受け入れられて人類の救いは成し遂げられました。キリストの復活はその完全な勝利の究極の<sup>しるし</sup>徴であり証しです。聖母マリアもわが子と共にその生涯を奉献し、共に共同のあがないに役割を果たして、それも神に<sup>よみ</sup>嘉され受け入れられました。聖母の被昇天は「聖母の復活」として、マリアが御子イエスと共に成し遂げられた偉業を明らかに告げるのです。教義宣言はその中で「聖母の被昇天は、原罪なく宿られたマリアの無原罪の御宿りという根本的な恵みの当然の実りである」と述べています。お告げの時天使はマリアに「恵みに満ちた方。主はあなたと共におられます」と挨拶しました。「恵みに満ちた方」とは「神と完全に一致し神の命と愛に満たされた方」ということです。この様にこの世に生を受けた瞬間から神の恵みに満たされ、そして神の母と成られて生涯神に捧げて生き抜かれたマリアが、一生を終えられた時直ぐに御子イエスと同じ救いの恵みの完成である復活、即ち被昇天の栄光に入られたのは、全く当然のことでしょう。



私たちは聖母を、神から破格の恵みと栄誉を受けた御方として崇敬してそのお執り成しを祈るのですが、聖母を神様の様に崇拝したり、御子イエスと同等の御方の様に仰ぐのでは決してありません。飽く迄も聖母を「御子イエスと結ばれて神のご計画に深く協力され、御子の最高の弟子、一人の完全なキリスト者として生き抜かれて、今も信仰者の完全な模範として御父から私たちに指し示されている御方」として仰ぎ見るのです。聖母は私たちから懸け離れた方ではなく、とても身近な御方なのです。第一、神の母と成られたこと、無原罪や被昇天の恵みなど、聖母に行われ与えられた神の偉大な業と恵みは、全て私たちにも与えられたもの、或いは用意されているものです。即ち、私たちキリスト者も信仰と洗礼の賜物によって既に「キリストを人々にもたらし者、キリストを生む者」とされ、「無原罪の恵み」にも与っており、そしてやがて「被昇天の栄誉」にも備えられているのです。実際、聖母は母親として、主婦として、<sup>はた</sup>機を織り、パンを焼き、水を汲み、油を補給し、薪を拾い、懸命に家庭を支え、こうして健気に逞しく生きた一人の生活者でした。信仰においては「完全なキリスト者、全ての信仰者の模範」と仰がれるように成られた御方ですが、でも神ならぬ一生活者、一信仰者であったマリアには、神のご計画は全て明らかであったわけではありません。<sup>しばしば</sup>屢々暗闇の中を唯信仰に<sup>すが</sup>縋って歩まねばなりませんでした。「マリアは神を信じた」と聖書は簡単に述べていますが、それは単純な信仰ではなく、「神は不可能なことを求められる筈はない。ご自分のご計画をその成就まで必ず見届けられる」という、熟慮の上の信仰でした。この信仰をもってマリアは全てを「はい。み旨の儘に成りますように」と受け入れて行かれました。十字架の下に立つマリアは「神を信じたマリア」と最高の姿です。その様な御方だからこそ私たちはマリアに全能の仲介者として心からの信頼を寄せることができるのです。

聖母マリアは被昇天の恵みを受けて、御子イエスと共に復活の栄光に入られました。無原罪の御宿りに始まり、被昇天によって完成された聖母マリアのご一生、その栄光の御生涯は、しかし本当に長く辛い信仰の旅路でした。それを忠実に歩み通された聖母は、今も同じ旅路を行く私たちと、共に歩んでおられます。聖母が苦しみを経てイエスの完全な弟子と成り、人類の母と成られた様に、私たちも忠実に信仰の道を歩んで、聖母マリアと共に「人々にイエスをもたらし者」と成って行きたいと思います。「被昇天の聖母よ、どうかこの路を、御子イエスの許まで、私たちと共に歩んでください。」

## [目次](#)



## 目 次



☆ 聖句	マリア・マグダレナ K.T. . . .	<a href="#">1</a>
☆ 巻頭言	傘木 澄男神父 . . .	<a href="#">2-3</a>
☆ 目次	. . .	4
☆ 洗礼・初聖体	. . .	<a href="#">5-7</a>
☆ サムエルナイト	. . .	<a href="#">8-9</a>
☆ 追悼 安田久雄大司教	T.K. . . .	<a href="#">10-11</a>
☆ 追悼 溝部司教様との出会い	A.W. . . .	<a href="#">12</a>
☆ 炊き出しについてのオリエンテーション	. . .	13
☆ 和田幹男神父 講演会	T.U. . . .	<a href="#">14-15</a>
☆ これからのレジオ・マリエ	. . .	<a href="#">16</a>
☆ カトリック洲本教会を訪ねて	A.K. . . .	<a href="#">17</a>
☆ バーベキューパーティー	. . .	<a href="#">18-19</a>
☆ 教会学校・川遊び	. . .	<a href="#">20</a>
☆ 図書紹介	H.H. . . .	<a href="#">21</a>
☆ (教会日誌・信徒動静)	. . .	22-23
☆ 編集後記	. . .	<a href="#">22</a>

題字 J.Y. 表紙絵 A.S.

「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。  
左記 QR コードからのアクセスもご利用下さい。



## 《 洗礼・初聖体 》

3月27日、前夜の復活徹夜祭に続き、復活の主日のミサが傘木神父、ラモス神父、ペンケレシ神父の司式により行われ、お1人の洗礼式と5人の子供たちの初聖体がありました。また4月3日復活節第2主日には、オマリー神父司式のミサの中でお子さんの洗礼式が行われました。皆様の上に、主の豊かな恵みが注がれますようお祈り申し上げます。



### 洗礼おめでとうございます

フランシスコ・ザビエル E.T.さん  
ガブリエル M.Y.くん



1933年12月に大阪西天満で仏教徒の家に生まれる。大学時代に仁川教会へ行った事がカトリックとの出会いで、ポーランド人のヤノ神父には当時大変お世話になりました。戦争により西天満から八尾、和歌山、池田、魚崎と転々とし、教会も仁川から住吉へかわりました。住吉教会で最初に出会ったのがデラ神父で公教要理の勉強をスタートしましたが、途中で横浜に転勤になり洗礼には至りませんでした。それでもカトリックと縁が切れなかったのは、飯島幡司氏の随筆「人間礼賛」、ポール・クローデルとジャック・リヴィエールとの書簡「信仰への苦悶」、ハインリヒ・デュモリンの「全き人間」を愛読していたことにあり、それらが自分の精神的バックボーンになっています。後に赤波江神父の聖書の集いに出席し、ブラッドリー神父とも出会い、82歳で洗礼を授かることが出来ました。「慌てないでいよう」「怒りは敵と思え」という言葉をモットーにしています。

E. T.

2016年4月3日に、私共の長男 M.Y. が、オマリー神父様の司式によりまして洗礼の秘跡を授かりました。洗礼名は「ガブリエル」です。神の言葉を伝える大天使“聖ガブリエル”を洗礼名に選びました。米国生まれの彼は、たくさんの人とコミュニケーションを取ることと、自然・生きものをこよなく愛する小学2年生の男の子です。洗礼式では、多くの皆様に祝福して頂き、とても嬉しかったようです。本人の言葉によりますと、「キリスト教になって、嬉しい。」とのことでした。また、オマリー神父様に水について教えて頂いたことを覚えていたようで、「水は大切。」と言っておりました。皆様にたくさんの事を教えて頂きながら、これからの長い道のりをゆっくりと確実に歩いていくことを望んでおります。どうか、よろしくお祈り申し上げます。 Y&S. Y

初聖体おめでとうございます

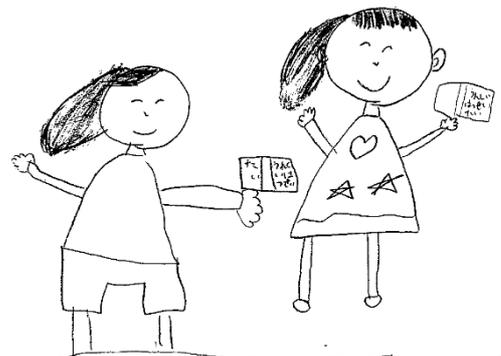
- ルチア                    A.S.さん
- マリア                    S.S.さん
- ディエゴ                R.K.くん
- エンリケ                W.K.くん
- エリザベス            R.K.さん



はつせい本をうけた

A.S.

白いドレスとお花のかみかざりがうれしくてドキドキしました。はじめてのはいなうで大きなこえで「アーメン」と言ったつもりだけど小さくなってしまいました。口に入れたときおべんきう会のリーダーたちに「ありがとう」とおもいながらいただきました。バの中にかみさまが本どうに入ったと思いました。おねえちゃんとじやができてうれしいです。これからいろいろがんばります。



S.S.

イエスは、人は人にもれるいことかして、なげれど、ほかの人のわらうこと、をせんと、自分らつみをうけとて、しごきました。たごうことをはじめに知りませんでした。Aちゃんとしておべんきうをたのしかたじま。

「ごせい体をいただくも、イエスさまが心の中にまこくたごうてまもてくれます。心がつよくなつて、やさしくなれます。

これからい、こしままが、新しい、若会でも、ごせい体をいただく、元気に、なす、ごせい体。

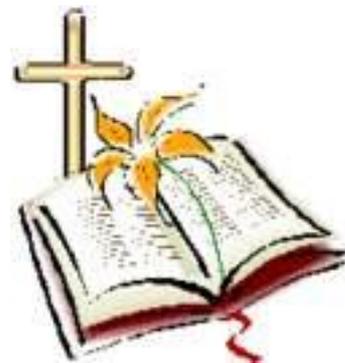
## 初聖体拝領の思い出

僕が初聖体でもうた  
聖書は してもよろかた  
です。

D.K.

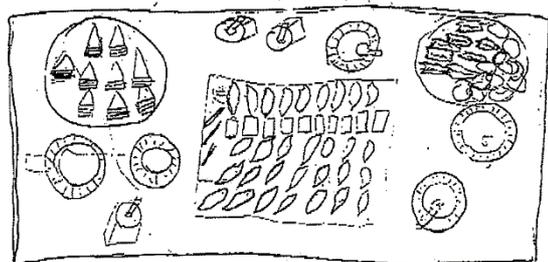


よくわかる絵とか  
たかが書いた 聖書が  
かよわがったので  
読むのが楽しかった。



## (イースター) 初聖体のパーティー

E.K.



初聖体のあとパーティールームでケーキとサラダを  
食べました。すしを7に食べてケーキを22食べました。  
パーティーをしたらきあがりの気持ちでした。

私は、初聖体をして、いろいろな人と友達になりました。  
神様の勉強もいろいろして楽しかったし  
教会のいろいろな部屋を見せてくれたり、してくださった  
ので、初聖体をして良かったと思いました。  
初聖体のとき、すごく、きんちょうしたけど、  
パコを、いただく時は、初めてだったのて  
もらった時は、とてもうれしかった  
で。きんちょうしていた、初聖体か  
おわった後は、おいしいご飯、おかし  
かたが、たし、プレゼントももらったから、  
良い思い出になりました。



R.K.



## 《 サムエルナイト 》

2016 年 4 月 2 日(土)～3 日(日)

今年も神戸中央教会と住吉教会の子供達の合同お泊り会「サムエルナイト」が行われました。

1 日目は高槻教会を訪問。

『高山右近』の紙芝居を見せていただいたり高槻城跡や資料館にも連れて行っていただき、たくさんのお話を教わりました。



高山右近の陶版画

奉納、献金などのお役をつとめました。  
今年も皆で有意義な時間を一緒に過ごせて、  
とても楽しかったです。 感謝♪



夕食はハヤシ  
ライスとサラダ♪

[目次](#)

子供達を書いた高槻訪問の感想文です。

今日、月2日、高槻教会で高山右近についてたくさんの説明をして下さったり紙、文房具を読んでも下さったり歴史館では細かい事も教えて下さって有難うございました。高山右近は、奈良県に産まれて、キリスト教を国民、特に高槻の人々に教えて下さいました。そして、教会も建て、たくさんの人から反対されるも、しかり教えを守って日本から追い出され、エジプトに行って40日ごとく作りまは。高山右近さんがキリスト教を中てくれたことばかりでした。公園に案内して下さいました。おやつまで用意して下さいました。ありがとうございました。



ぼくは、今日、高槻見教会に行きました。高山右近のせつめいありがとうございました。

高山右近は、なら県に生まれました。ぼくは、しりません地なんて知らなかったけど今日学べてよかったです。豊臣秀吉がしりのリストに高山右近とそのしりなまがしりかにやらそうとしたけど、石田みつなりと前田といふがそのリストをはずしたから、高山右近がたすかったので安心しました。ぼくはそんなにもかしの人の名前は、しりてめが「おたのうなかつ」とだてませむねとさな回きむらと豊臣秀吉と、とくがわあすとしよとたいしなどしが知らなかったけど、高山右近がわあすたのでうれしかったです。ありがとうございました。



M.S. より

おしほひがたのしをかやしおもしろかったぞ  
またおしほひはよくくださり

R.M.



ぼくは、今日、高山右近のことについて学びました。高山右近は、戦国時代の戦いが色々なところでおこなわれていた、かこくな時代に生まれましたこのかこくな中ですばらしい人生をあらわしました。高山右近は、12才で、高槻規城の城主になりました。ぼくがもし、高山右近だったら、今年で、城主になっていました。もうぼくに、こんなたいやくをまかせたら、フレイジャーで、戦いになんか、どうで、いけません。

それから、12年、城主になってるので、すごい、ゆうきの、まをちまななど、思いました。そのあと、高山右近は、備前川に、キリスト教を、せめると言われたけど、せめすに、いたので、備前川から、ついに、ついで、武士を、おめて、舟にのせられ、~~備前川~~ 備前川に、マニラに、いって、そこで、マニラの人から、親しく、マニラに、きて、40日後に、せくなりました。高山右近の、おとうさまは、たくさん、の人があつまって、せくなられたかたに、おおくの、悲し、おぼ、なれて、ごうかな、おとうさまに、なりました。「ぼくも、あんな、人、に、かえり、たい、人、に、なりたい、と、思いました。」今日は、本当に、ありがとうございました。

●住吉教会、新年の、 Y.M.

## 《 追悼 安田久雄大司教 》

T.K.

大阪教区前々教区長 パウロ安田久雄大司教は、2016年4月23日（土）午前5時3分、カトリック仁豊野ヴィラにて、老衰のため帰天されました。94歳でした。

葬儀ミサと告別式は4月26日（火）午前11時半、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で前田万葉大司教司式のもと執り行われ、多くの司教、司祭、修道者、信徒の方々が参列され、神戸地区の各小教区からも司祭、信徒代表が参加されました。



式の中で、池長潤大司教は「パウロ安田久雄大司教はだれにでも優しく細やかな気遣いをされるお人柄でした」と故人の経歴と思い出を語られその功績を称えられました。列席の全司教、司祭が棺を囲みサルヴェ・レジーナを捧げた後、喪主の前田大司教が遺影をかかげ、司祭団に棺を抱えられ厳かにカテドラルに別れを告げられました。





安田久雄大司教は 1958 年 3 月に大阪大司教区司教秘書として着任されて以来、1997 年 5 月に大阪大司教を引退されるまで 40 年近くの長きにわたり我々信徒を導いて下さいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。  
住吉教会にはたしか 1981 年春頃に堅信式の為に小教区を訪問されミサを司式して頂きました。引き続きのパーティーでは本当に気さくな感じで信徒の皆さんと歓談されていました。  
晩年の 1995 年 1 月の阪神大震災では、司教館の売却等で教区の再建に陣頭指揮をされ、新たに

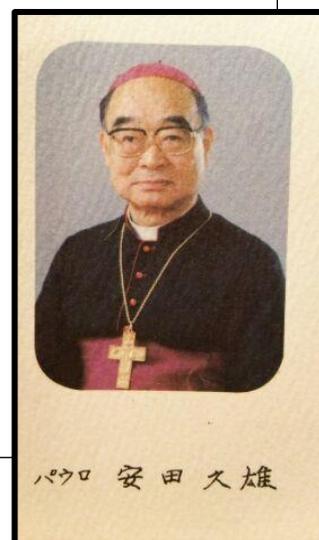
「新生計画」を推進されました。

また、震災直後には三田での黙想会には住吉教会からも多くの信徒が参加して、安田大司教といろいろお話したことを懐かしく思い出します。

今は天国で安らかに憩われますよう信徒一同心からお祈り致します。

略歴は以下の通りです。(2016 年 4 月 23 日付教区本部事務局お知らせ)

1921 年 12 月 20 日	福岡県久留米市に生まれる
1943 年 09 月	東京帝国大学農学部水産学科卒業
1943 年 09 月	中央气象台化学科生物係
1945 年 10 月～1947 年 02 月	神戸海洋气象台海洋課化学生物係
1951 年 03 月	上智大学文学部哲学科卒業
1951 年 07 月～1955 年 06 月	アメリカ留学。在バルチモア 聖マリア大学神学科卒業
1955 年 05 月 21 日	司祭叙階
1955 年 10 月～1957 年 10 月	ローマ留学。教皇庁立ウルバノ大学大学院博士課程卒業
1958 年 03 月～1963 年 09 月	大阪大司教区司教秘書
1963 年 09 月～1967 年 05 月	英知大学副学長
1967 年 06 月～1970 年 03 月	カトリック北浜教会主任
1970 年 02 月 05 日	大阪大司教区補佐司教に任命
1970 年 03 月 21 日	司教に叙階
1978 年 11 月 15 日	大阪大司教に任命
1979 年 02 月 12 日	着座
1997 年 05 月 10 日	大阪大司教引退
2016 年 04 月 23 日	カトリック仁豊野ヴィラにて帰天



[目次](#)

## 追悼 《 溝部司教様との出会い 》

I.W.

私の溝部司教様との出会いは1年半前、大学入学のため京都に引っ越してきた日でした。私の兄が溝部司教様にずっとお世話になっており、若者を誰よりも愛している溝部司教様という方が京都の望洋庵におられると聞いていました。そして京都に引っ越しした当日、何も京都のことを知らない私を心から歓迎してくださって本当に嬉しかったのを覚えています。電話番号をすぐに交換し、頻りに連絡をとるようになりました。時には急に電話で、今日晩御飯を食べに望洋庵に来ないかとお誘い下さり、司教様とシスター、他の若者と温かい食事を囲むこともありました。家族とも離れ一人で心細い私に光を差し込んでくださったのが司教様でした。私たちは司教様と共に食卓を囲み、たわいのない話から将来についての夢、聖書についてなどたくさんのお話を勉強しました。司教様は食事をともにした後、必ずすることがありました。それは分かち合いです。一日の振り返り、感じた事、感謝したい事、皆に伝えたい事などをろうそくを囲みながら食後に分かち合いました。分かち合いを司教様が好んだ理由は、その日に感じたことを他人に伝えることでお互い高められ、信仰を分かち合い、確認するためです。私も初めは自分の思っていることを人にシェアするには勇気がいりました。でも、何度か司教様やシスターと分かち合いをすることで自分の信仰や思いなどが明確になり自信を持てるようになりました。



2012年 住吉教会ご訪問時の溝部司教様。玉之浦の植樹。

司教様は長年若者による海外ボランティア活動を実施・サポートしてこられました。そして私は去年、司教様からの一本のお誘いの電話で東ティモールに行くことになりました。海外に興味があった私ですが、先進国しか行ったことがなく、東ティモールという名前も聞いたことがない発展途上国に、ボランティアに行くことになった私は初めどうしたらいいかわからず動揺していました。何もわからず、ただ「司教様が薦めてくれたから」「若者にたくさんのお話を勉強してほしいという司教様の熱意」で東ティモール行きを決心したのです。司教様は病気が悪化しており、残念ながら東ティモールには一緒に行くことができませんでした。しかし、そこでは本当に見たことのない世界が広がっており、司教様のおかげでたくさんのお話を吸収することができました。東ティモールは物質的にはとても貧しい国ですが、人々の内面的な明るさや人生に対する希望は、先進国に負けていないと感じました。東ティモールで学んだことを日本に帰ってからたくさんの人と分かち合うことができました。こんな素晴らしい経験ができたのも司教様がいらしたからです。

私は多くのことを司教様から学びました。司教様といると神様をさらに近くに感じる事ができました。お身体があまり動かなくなっても若者に対する愛は絶えず、私たちに常に将来の希望を見出してくださいました。そんな司教様の存在は大きく、お亡くなりになられてからもずっと私たちの心の中できらきらと光って、勇気づけてくれています。司教様にお会いできて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。神に感謝。

[目次](#)

## 《 炊き出しについてのオリエンテーション 》

7 月 10 日のミサの後、神戸社会活動センター長 M.Y. さん（神戸中央教会）による毎週土曜日に小野浜公園で行われている野宿者支援のための“炊き出し”についてのオリエンテーションがありました。

その日の福音の箇所は「善きサマリア人」（ルカ 10：25～37）でした。  
傘木神父は説教の中で

『その人をみて憐れに思い、近寄って』いったのはイエス様であり、助けられた旅人は私たちである。「隣人愛」とは私たちが備え持っていたものではなく、イエス様の愛を体験して私たちは持つことができる」と話されました。

オリエンテーションに先立って、Y さんは傘木神父の説教を引用しながら、「私自身が隣人によって助けられた傷ついた人であったことを思い出し、助けられた喜びに感謝して（隣人を探し歩くのではなく）、すぐ横にいる隣人に（それは距離的に近いという意味ではなく）、手を差し伸べていくのが、センターの活動ではないかと思いました。今年は慈しみの大聖年で、教皇様は「慈しみを行いに」と呼びかけられています。「行い」の箱（種類）はたくさんあります。住吉教会は第一土曜日が炊き出しのお当番で、小野浜公園での炊き出しを行って下さっています。炊き出しへの参加がすべてではなく、直接・間接いろいろな形で支援を頂いている住吉教会の皆様感謝の気持ちをこめてお話をしたいと思います。」とご挨拶なさいました。

続くオリエンテーションでは、実務的なことではなく、ボランティアがおちいりがちなことの注意点や、言葉遣いの違い（たくさんの方が集まっていて、人それぞれの環境の中で得た言葉であるから、けっして悪気のあるものではない）、今の貧困の実態などのお話がありました。Y さんは「この炊き出しが震災以来 20 年続いたのは神戸地区の奇跡の 1 つ」と話されたのが印象に残りました。（編集部）



住吉教会の当番の炊き出しメニューは豚汁とあたたかいごはんです。

### 社会活動チームからのお知らせ

第 1 土曜日は住吉教会の炊き出し当番です。お一人でも多くの方にお手伝いいただきたいと思います。

参加して下さる方は、パウロ三木ホールホワイトボードにお名前をお書きください。行き又は帰りだけでも車を出していただける方も歓迎です。

9 時 30 分 住吉教会出発、13 時頃 現地出発の予定です。

## 《 和田幹男神父 講演会 》

「日本の平和を考える－戦時下の教会状況、殉教司祭の出来事を通して－」

T.U.

5月3日（火・祝日）午後、JR大阪駅環状線内回りホームから関空快速に乗り換え、三国が丘駅で下車し、カトリック堺教会で開催された上記講演会に出席しました。当日は約80名の信徒がゆかりの教会から出席され、宮津・舞鶴からも来られていました。以下、講演要旨です。

### （１）大阪教区の歴史

川口教会は外国人のための教会として献堂。大阪教区最初の司教座聖堂となった。ビリオン神父は四国・岡山・京都・奈良を歩きながら宣教を続けられた。

内淡路町教会は日本人のための教会として1878年に献堂され、1930年に現在の関目教会となる。

以降は、玉造教会（1890年代献堂、現在の司教座聖堂）、北野教会（1900年代献堂、現在の梅田教会）田辺鶴ヶ丘、香里、住吉、中山手・下山手（現在の神戸中央教会）、堺、岸和田、和歌山（現在の屋形町教会）、河原町、舞鶴、宮津教会（ルラーク神父、賄いは山中神父母上⇒安田大司教の親戚）が次々に献堂された。

### （２）和田幹男神父の家系と住吉教会

和田神父の母上は、1910年（明治43年）京都府綾部市で生まれ、カスタニエ司教から受洗。カスタニエ司教（1899年パリミッション会司祭として叙階、来日。1903年から1912年まで舞鶴教会司祭）は1941年司教を退任された。晩年のカスタニエ司教はビローズ神父（茨木のキリシタンの里発見に貢献）と共に住吉教会で過ごされ、六甲山ホテルへも度々出かけられた。後任は初の日本人司教・田口芳五郎師（枢機卿）。

住吉教会設立は81年前、御影の日本家屋を仮聖堂として、武庫郡住吉村に移り、メルシェ神父（夙川教会司祭の1945年5月から終戦まで憲兵隊に拘留）は住吉教会設立に大きな役割を果たした。

住吉ゆかりの神父はデラ神父、ランテンクルド神父、モラ神父、ジュセン神父、そしてベロー神父のお名前が挙げられる。

和田神父は両親（住吉教会伝道師）とともに住吉教会で子供時代を過ごし、聖人物語を多く愛読。日本二十六聖人についてブスケ神父の著作で学んだ。いここは夙川教会在籍。

[目次](#)

### (3) ブスケ神父の殉教：1943年、北野教会司祭の時、馬場町の憲兵隊で殉教。

ブスケ神父は1900年叙階後、関目教会に着任され、後に夙川教会の基礎を作られた。関目教会に寄贈された鏡は現在も使われている。ブスケ神父の殉教の原因は、北野教会で公教要理を受け、洗礼、初聖体を受けた信心深い青年が、実は憲兵隊のスパイであったことであり、15の民心攪乱罪で逮捕され（朝鮮独立に加担、簡素な葬儀＝英霊を粗末にした、天皇への不敬＝天皇を神として認めなかったこと等、青年はブスケ神父の言動を全てノートに書き記していた）、拘留されたブスケ神父は驚愕のあまり、失神し、狂乱した。青年がユダであることを知らなかったのである。

田口司教が憲兵隊に行き、釈放願を提出するも、陸軍記念日の18時頃、憲兵隊の車が来て香里の精神病院へ出向いた。ブスケ神父は憲兵隊に連行されて間もなく発病し、加療中、流行性感冒から肺炎を併発し、2月末帰天された。ブスケ神父はひどくやせ衰え、別人の感であった。（西村神父による）

ブスケ神父の遺体は服部緑地から西宮満地谷墓地に改葬された。関係資料は戦災で消失したが、フランス・リヨンのブスケ神父の末裔（司教代理）が絵葉書等を保管されており、データ化され夙川教会で来年閲覧可能に。

### (4) 戸田横浜教区長の殉教

1945年8月18日、元憲兵隊員に横浜保土ヶ谷教会にて銃撃され、殉教。  
のち犯人は八王子教会に名乗り出た。

### (5) 和田神父質疑応答

#### ①民族宗教（ユダヤ教、日本の国家神道）について

日本神道をそのまま推し進めると、民族宗教の枠を出ない。日本固有のものであり、限界がある。神道は根本的に脱皮しないと、キリスト教のように普遍的な価値は見いだせない。昔の保守主義に留まっている。

韓国や南方諸島に鳥居を作っても受け容れられない。反発されるのみ。

#### ②サムエル記、ヨシュア記はある視点から神様と自分たちの関係を振り返ったものであり、反省（悔い改め）しながら、未来を描いて行く。

極東裁判は外国によって裁かれたものであり、日本人によって回心していない。

“全てに時がある。戦う時、平和の時”（イスラエルの知恵（注）コヘレト3-8）

ラビン将軍とアラファト議長の握手。

#### ③神様とマンモン（お金）に両方仕えることは出来ない。

世界のリーダーはお金に仕えており、大衆は見捨てられている。

主義（イズム）ではなく、現実直視。神に誠実に耳を傾け、対話する。

## 《 これからのレジオ・マリエ 》

洲本教会での野外集会

レジオ・マリエ

レジオ・マリエは1921年にアイルランドで誕生し、今では世界中に広まっている霊的な教会公認の信徒使徒職団体です。レジオ・マリエは、ラテン語で「マリアの軍団」という意味で、「レジオ」と略称されています。ピオ11世以降の歴代教皇様方もレジオには絶大な賞賛と励ましを与えておられます。

レジオには提要という本があり、その理念や守るべき事柄についてくわしく記されています。名称や提要からは一見難しく堅苦しい印象を受けるかもしれませんが、大切なことはひたすらマリア様に倣うことです。「レジオにとって一番大切なことはなんですか」と鈴蘭台の昔からのレジオ会員の方にお尋ねしたら、「毎週の集会に出席することです」といわれました。そういえば、私たちも何の知識もなしに入会し、集会を通していろいろ教えて頂いたと思います。

集会では、必ずロザリオ一環を唱え、神父様の短いお話があります。そのほか、他の教会の神父様のお話や、文書に書かれたものを読む機会もあります。会員にとって大切なことを学ぶ場所が集会だ、とあらためて気づかされました。

これからは今まで私たちがしてきたことを、司牧チームや典礼チームの方々と一緒に行い、病者訪問やごミサの準備、後片付けなどを、心をこめて続けていきたいと思っています。

レジオでは年一回、会員の親睦を兼ねて野外集会をするよう決められています。今年は久しぶりに洲本教会を訪問することにし、お許しを得て信徒館で集会をさせていただきました。このようにいろいろ楽しいこともありますし、レジオの仕事を通しての喜びもたくさんあります。今は私たちのレジオは、先輩方が健康上の理由等で次々に退会されて、十分な働きができていません。新しい方々の入会を心よりお待ちしております。



[目次](#)

## 《カトリック洲本教会を訪ねて》

聖歌隊 A. K.

6月14日 梅雨真っ只中、晴れ女達のお陰で貴重な晴天となった日。聖歌隊メンバーの内、約半数の12名が参加し、カトリック洲本教会を訪問致しました。洲本教会は今年の2月6日に献堂式が行われたばかり。その後、住吉からはレジオ・マリエの方々が野外集会で行かれ、新聖堂が素晴らしかったと伺い、ならば聖歌隊も皆で行きましょう！と計画しました。

三宮から洲本までは高速バス、教会へはタクシーに分乗して行きました。約2時間半、バスの中ではお菓子を配ったりしながら、おしゃべりに花が咲き、賑やかに過ごしているうちに、あっという間に到着しました。

池長大司教様と3名の信徒の方が「ようこそ、いらっしやい！」と私達を温かく出迎えて下さいました。門を入ると、正面に三角のとんがり屋根。そして、そのてっぺんには十字架があり、これぞ[ザ・教会]とも言うべき聖堂がそこに建っていました。

建物の中に入ってすぐ目についたのは、両サイドに置いてある立派な彫刻の重厚なテーブルでした。それは旧聖堂の祭壇をリメイクされたものだそうです。旧聖堂の長椅子も引き続き使っておられ、長年使用されないまましまっておいたという立派なご聖櫃ランプも、新聖堂の雰囲気にとびつたりでした。聖堂内をくまなく案内して頂き、一つ一つ丁寧なご説明を聞く内に、伝統あるものを今も大事にされているのだと感じました。

皆で感謝のお祈りをし、聖歌2曲をお捧げしました。アーチ型の天井に歌声が響き渡り、気持ちよく歌うことができました。

その後、信徒館で冷たいお茶とお菓子をご馳走になり洲本教会を出発しました。

昼食は淡路ごちそう館にて旬の〈しらす丼〉などを堪能した後、手に手に土産を買って、再び高速バスに乗り込みました。暑い日ざしの中を長時間移動したためか、皆さんお疲れのようで、どこからともなくすやすやと…行きとは一変し静かな車中でした。久しぶりの遠足、とても楽しい一日。



[目次](#)

## 《 バーベキューパーティー 》

7月31日(日)

今年も恒例の住吉教会バーベキューパーティーが行われました。  
傘木神父、オマリー神父、コンスルタ神父、ペンケレシ神父をはじめ、中央教会、  
六甲教会や枚方教会からのお客様もお迎えして、暑い中、皆さんお話しも弾み、  
楽しいひと時を過ごされました。準備をお手伝い頂いた皆さんに感謝です。  
来年も楽しみです。



オマリー神父の始めのお祈り



乾杯



おむすび隊もおお忙し



シェフの皆さん

お肉焼けたかな？



さんまも登場





子供も大人も最高の笑顔です



たくさん食べなきゃ



暑いですね



最後はいつもの大集合写真、ハイ、チーズ

## 《 教会学校・川遊び 》

2016年7月2日

神戸中央教会の「小さき花の教会学校」と合同で、あわせて70名で恒例の住吉川・川遊びを楽しみました。この日は最高気温が30度を超え、真夏を思わせるような暑さ。子供達は冷たい川の水の中に大喜びで入って行きました。

出発前のお祈りと歌



パウロ三木ホールで  
食事



たくさんのリーダー達が、  
安全に気を配り、子供達を  
見守り無事に川遊びを  
終えることができました。



## 《 図 書 紹 介 》

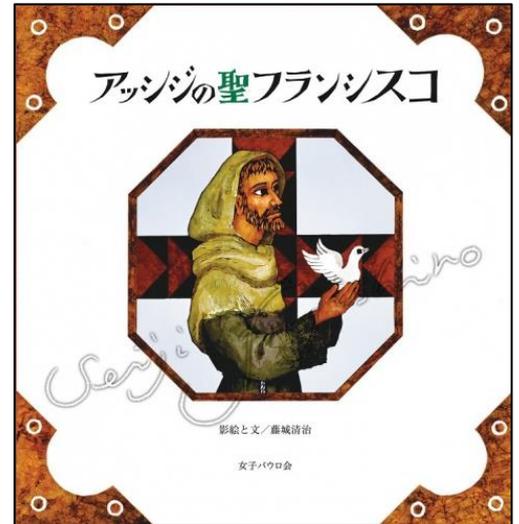
H.H.

### 「アッシジの聖フランシスコ」 影絵と文 藤城清治 女子パウロ会

藤城さんの影絵を見ると、絵本を読んでもくれた母の声・カレンダーのかかった生家の居間、といった幼い頃の思い出の光景が、大きな目をした小人と共に浮かびあがってきます。この方の影絵を見たことがないという方はいらっしゃらないのではないのでしょうか。その藤城さんが 21 年かけて 92 歳で完成させたのがこの「アッシジの聖フランシスコ」です。絵本というより画集とお呼びしたほうがふさわしい大判 30 ページ、全 64 ページの大作で、影絵と文章で聖フランシスコの生涯が描かれています。スタンドグラスを思わせる影絵が、アッシジのフランシスコの生涯を思い巡らしながら、文章だけでは得られない黙想や祈りへといざないます。

このたび「アッシジの聖フランシスコ」を紹介するにあたって藤城さんの他の本を読んだり、展覧会に足を運んだりいたしました。影絵というのは、後ろからの光によって影とのコントラストができ、また色彩も美しく表れてきます。まるで神様やキリストの「光」によってよりよく生きられる私たちの人生のようだと感じました。

何度ページを開いてもまた新しい発見の喜びのある本なので、自分で楽しむだけではなく、例えば・・・病床にある方のなぐさめに、老いた母の楽しみに、と贈りたくなる本でした。



### 「悲しみの秘儀」

若松英輔 著 ナナロク社

批評家・若松英輔さんが「日経新聞」に連載した 25 編のエッセイを 1 冊の本にしたものです。

若い頃よりも、読んだ文章の一節や短歌を心の中で印をつけることが多くなったのは、それだけ人生でいろいろなことに遭遇してきたからではないのでしょうか。出来事を語ることはできてもその時の思いを語ることは難しいことです。読書で出会う「心に残る言葉」というのは、今までの語り得なかった思いをあらわしてくれている・・・そのことにこの本は気付かせてくれました。

言葉ではうまく語れないような「思い」を著者の言葉やいろいろな作家の言葉の「引用」であらわして、ゆっくりと線を引ながら読みたい本でした。「思い」の中で「悲しみ」が大きな比重を占めているのは、著者の別離の深い悲しみの体験から来るということを終章近くで知ります。

宗教は考えて理解するものではなく、行為として生きて体得するものです。たとえてみれば、山の頂上にむかって歩いていく道であるといえましょう。人は二つの道を同時に考えることはできても、同時に歩むことはできません。  
「遺稿集『南無アッパ』の祈り 井上洋治神父  
～9章「師について」の中の引用文～

[目次](#)

## 《 編 集 後 記 》

暑さをものともせず、元気に遊ぶ子供たちの声が蝉の大合唱と共に聞こえてくる季節です。世界のあちこちで悲しい出来事が起こっている今、この子供たちの未来が平和のうちに共存できる幸多き世の中であることをマリア様を通してお祈りいたします。

A.S.

連日のテロや内乱により、多くの命がいとも簡単に失われていく報道に胸がふさがります。神様の御心が何とか少しでも多くの人に伝わり、愛と許しの世界が地上にも訪れないものかと願わずにはられません。机の上にある「マザーテレサのカレンダー」の言葉に、そうありたいと祈りながら。

---

平和は ほほえみから始まります。1日に5回 あなたが本当は笑顔を見せたくない人にほほえみかけなさい。それを平和のためにするのです。  
 そうして神の平和の光を放ち その明かりを照らし すべての人の心の中のあらゆる憎しみとさらには権力欲も 消滅させてしましましょう。

---

T.Y.

### 教会案内

#### ミサ

主日ミサ	日曜日	9:30
	第1・第3土曜日	19:00
	スペイン語	
週日ミサ	火・金曜日	9:30

#### 講座

信仰講座 (Fr. 傘木)	Fr. 傘木担当日曜日	10:50
信仰の分かち合い	第2・第4日曜日	11:00
聖書の集い	Fr. 傘木ミサ担当金曜日	10:00
Come & See	第4土曜日	15:00

#### 教会学校

第1・第3土曜日 14:00-16:00  
 対象：小学1年生～6年生

#### 評議会

第3日曜日 11:00

#### 野宿者支援炊出し

第1土曜日 9:30  
 (住吉教会集合)



### 「すみよし」第199号

発行日	2016年8月15日
発行責任者	ブラッドリー神父/コンスル神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
<a href="http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp">http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp</a>	